



TAKIKAWA ROTARY CLUB

本日は 第2632回 例会

プログラム

地区大会準備会議

No. 2487 9月24日(木)

次週以降の予定

10月1日(木) 地区大会準備会議

10月4日(日) 2510地区大会

10月15日(木) 職場訪問(移動例会)

第2631回 例会報告

2009年 9月17日(木)

会長挨拶・報告



いよいよ地区大会まで16日となりました。何回も何回も申し上げておりますので耳にタコ状態でしょうが、今後はまちがいなくいろいろな分担がメンバーの皆様にかかって来ると思っています。当日10月3・4日あけるのはもちろんですが、それまでの準備のお手伝いもよろしくお願ひ申し上げます。

さて、先々週の例会でロータリーの文献の中にウィ・サーブアイ・サーブという言葉が出て来て驚いたと話させていただきました。ウィ・サーブはライオンズクラブの言わばキャッチコピーであり、ライオンズクラブでは乾杯にも全員で掛け声をかける時もウィ・サーブを使います。ですから、ウィ・サーブはライオンズの言葉だと知識の足りない私は勘違いをしておりました。

確かに考えてみますと昔、ロータリーから別れてライオンズが出来たという歴史を考えると、その思考は似ていて当然なのでしょう。しかし、アイ・サーブという言葉はライオンズクラブには無いそうです。ウィ・サーブとアイ・サーブは対局関係ですが、例えば米山や財団を考えたもわかる通り、車の両輪の関係であります。

クラブが集める。個人が自主的に寄附する。ウィとアイはほとんど気持ちの問題であり、心掛けに対する対局関係があるだけと気付きます。気持ちの問題だけと言っても、その気持ちの問題が多分、地区大会も誰かが頑張っている非常に重要です。

ご苦勞なことだという感想だけではなく、メンバー皆さんお一人一人が自分の問題としてとらえていただく時期になりました。これからいろいろな作業が必ず入ってきます。10月3・4日会社の休みをとって、2日間お手伝いいただくことになろうかと思っておりますので、今から心の準備、汗をかく準備をよろしくお願ひ致します。

幹事報告



1. 羽幌RCより会報が届いております。
2. 地区ガバナー事務所より、ロータリーカード入会の願ひが参りました。申し込み希望される方は事務局へ申し出て下さい。又、兵庫県西・北部豪雨災害と台湾台風災害義援金のご協力の願ひが来ております。各テーブルに募金箱を回しますので、皆様のご協力を願ひいたします。

委員会報告

釣同好会 小山進会員

10月11日(日) 釣同好会、締切は今月中でございます。多くの方の参加をお待ち致しております。

親睦委員会 宮崎英彰会員

今日木曜フォーラム6時からほおずきで行います。多くの参加をお待ち致しております。

先週のプログラム

《社会奉仕委員会担当例会》

ゲスト卓話

《そらぶちキッズキャンプが目指すもの》



鷲尾昌法委員長

浅野房世(あさのふさよ)様 東京農業大学農学部バイオセラピー学科園芸療法研究室教授 一般財団法人そらぶちキッズキャンプ理事

略歴 上智大学卒業。1990年より屋外空間におけるバリアフリー、地域活性化のための公園づくり、欧米における公園運営手法などの研究や屋外空間のユニバーサルデザインの概念をアメリカと共同研究により日本国内に導入されました。

- ・農学博士のほか、
- ・技術士(都市及び地方計画)
- ・高等園芸療法士(アメリカ園芸療法協会認定)の資格もお持ちでございます。

2510地区渡 ガバナーの方針にそらぶちキッズキャンプの支援。今年度のみならず、今後とも皆様にご支援いただけるよう、そらぶちキッズキャンプが目指すものと題して、ご満悦をたまりご理解を深めていただきたいと思います。

また本日は、事務局長代理の佐々木健一郎様にもお越し頂いておりますので、ご紹介させていただきます。



東京農業大学教授 浅野房世様

この様な場所でそらぶちキッズキャンプの事を話ささせて頂く機会を与えて頂きまして、ありがとうございます。

そらぶちとは、何かと言う事は皆様ご理解を頂いているとは思いますが、なぜ滝川にこれが来たか、経緯と私達がどの様な事を思ってこの運動を始めたかを少しお話し致します。

当時滝川市収入役だった中さんに2001年プレゼンテーションしたパワーポイントしたもの

をそのまま持って来ました。私は20年前から死について亡くなるという事が、どういう事が、亡くなる恐怖感を美しい自然が癒してくれるのではないか、その様な過程の元に、ずっと研究をしており学位も取らせて頂きました。

2000年に難病の子供達が家庭と病院でしか行き来できない子供達が、全く屋外に出れない子供達が可哀相と言う事で、ポールニューマンが作ったボギークリークと言う施設を視察しました。その後2001年に収入役だった中さんと縁があり丸加高原に案内頂き、ここだったら日本で唯一ボギークリークの様な施設が出来るかもしれないと思い、中さんと当時国土交通省の事務次官の松本さんと会い、事務次官室でプレゼンをさせて頂いた物をそのままお持ちしました。

ユニバーサルデザインと言う言葉をお聞きになったと思いますが、障害がある子供、お年寄を含めて一緒に旅行が出来る様な場所と言うイメージでとらえて頂きたいと思います。「穏やかに、おおらかに、美しい国を全ての人に」と言う事で松本さんと中さんにプレゼンをさせて頂きました。丸加高原には、当時から色んな観光施設がありました。ここに年間45万人の人が訪れる、もっと意味のある施設が作れたらと思います。ただ観光客を増やすのではなく、日本中に意味のある風を巻き起こさないといけないとお話を致しました。

ポールニューマンが作ったキャンプ場の名前がボギークリークと言う名前ですが、この地にその様な施設を作りたい。アジアにも日本にも無い施設を作ってはどうかと思いました。それには人が訪れたいくなる様な広大な土地がなくてはならない、そこで私は滝川の丸加高原から眺めた風景が、ここならパスポートが要らない外国があると思いました。今30万人位の難病の子供達がいます。その子供達が僅かでも来る様になると施設が大きくなっていきます。例えば30万人の内の3%の子供達が丸加高原の施設に来たとしたら、参加者が1万人その兄弟が1万人増える事になります。また親も子供をキャンプ場に預かる事によって滝川に泊まり、富良野に行ったり色々な所に観光に行き地域の発展にもつながります。

アメリカの施設は、子供達にワンツーマンでボランティアの人達が付きます。1万人の子供達を年間ケアする事により、ボランティアの人達がそこに滞在する事になりますし、沢山の報道機関も取材に来てくれます。アメリカ並の施設を丸加高原でやると、その波及効果は4億5千万位の事業収益になると見込まれてますし、地域の活性化につながって行きます。

ポールニューマンが作った財団の経緯と言うのはご存知だと思いますが、当時ポールニューマンは、かなりの財を築いていましたので、ドレッシング等を作って商売していたニューマンゾーンという会社の収入を全部ホールインザホールの協会に寄附して財団が設立されました。

私は2001年に中さんに案内頂いて、ここ丸加高原ならと思ったのですが、滝川の為と言う事は毛頭考えておりませんでした。日本の国の中に1つ位、人間1人1人の善意やちょっとした努力で町おこしや地域の活性化につながっていくと言う事例を作って全国に美しい風景の

ある過疎の村に、この様な施設を沢山作ってほしいと思っています。ですから、そらぶちは成功してもらわなければ困るのです。私達の夢はそらぶちが成功する事です。それには運営費を皆さん達の善意でコンスタントに収益が出来る様になったら、このシステムをそっくり南の過疎の村に持って行きたいと思えます。冬は北海道の雪の中でキャンプを、涼しくてはならない病気の孩子是北海道で、自分で生きていく事が肯定出来ない自閉症の子供達はイルカのセラピーが出来る沖縄や石垣島で出来るかもしれません。でもその村にお金が無ければこの様な施設は出来ないと全国中が思っているのです。滝川で成功すればそうではないと、だんだんと行政が振り向いてくれます。

滝川とは、幸いな事に16ヘクタールの土地を25年間無償でお借り出来ました。市役所の職員の方も手伝ってくれる様になりました。

人々の善意によって、その地域が活性化し、本当に必要とする子供達が豊かになり、なによりも医療の概念が変わる事を皆様知って頂きたいと思えます。なぜなら医療では死と言うものが敗北だと思われていました。だが死は皆に与えられた平等の自性であって、その前に何を地域がしてあげられるかを、そらぶちに参加して頂いた医療者やナースの方達は皆、それぞれ病院に持ち帰って自問自答し色々な解決策を考えて頂いております。

そらぶちは丸加高原でやっておりますが、丸加高原の為でもなく滝川の為にやっている訳でもありません。滝川をモデルとし社会を変えていく為に、そらぶちがあると言う事をこの機会をかりてご説明申し上げたかったのです。ご静聴ありがとうございました。

ニコニコBOX

向井 辰巳会員
息子に社長職を譲り、会長になりました。今後も息子共々よろしく願います。

細田 光人会員
静内でのRC野球大会での応援有り難うございます。監督のせいでまだクラブ勝もできません。反省しています。

佐藤 茂会員
6クラブゴルフ大会で、ロータリー団体優勝して。うれしい事がありました。

佐藤 佳朗会員
6クラブゴルフ対抗戦優勝しました。(戦力になりました)(ダブルベリアでした)

鷲尾 昌法会員
担当例会を終えて。

会長/川口 義弘
幹事/竹田 行宏
編集/クラブ会報委員会

電子メール info@rotary.gr.jp
ホームページ http://www.rotary.gr.jp/

例会日●毎週木曜日 PM 0:30
例会場●ホテルスエヒロ
事務局●ホテルスエヒロ 7F

〒073-0032 滝川市明神町2丁目2-16
TEL (0125) 22-3344
FAX (0125) 24-2755



クラブ会報は再生紙を使用しています。